

子どもの本だな 43

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ポケットのないカンガルー

エミイ・ペイン さく H・A・レイ え
にしうち ミナミ やく (偕成社)

お母さんカンガルーのケイティにはポケットがありません。ワニのお母さんはおんぶ、サルは抱っこで子どもを運ぶと教えてくれますが、短い前足ではうまくいかず困っていました。ある日、物知りのフクロウにポケットが町で買えると聞き、急いで町へ跳んでいきました。すると、体じゅうポケットだらけの人がやってきたので、ケイティは、どこでポケットを買ったか尋ねました。男の人にエプロンをもらったケイティは、全速力で森に帰ると、たくさんの動物の子どもたちをポケットに入れてやりました。

世界一たくさんポケットのあるお母さんカンガルーになったケイティの嬉しそうな表情に、子どもたちも大満足です。おさるのジョージと同じ画家による躍動感あふれる絵も、お話の雰囲気ぴったりで。読んでもらえば4歳くらいから。

(池田)

ライオンと魔女

C・L・ルイス 作 瀬田 貞二 訳 (岩波書店)

ピーター、スーザン、エドモンド、ルーシィの4人きょうだいは、空襲を避けて田舎に住む学者先生のお屋敷へ疎開しました。ある日、末っ子のルーシィは、お屋敷を探検中に、空き部屋で見つけた大きな衣装だんすに入り、毛皮の外套をかき分け奥へ進んでいくと、雪の降る森に出ました。そこはかつて、もの言う獣や小人、木や水の精たちが平和に暮らし、今は白い魔女によって永遠の冬に閉ざされてしまったナルニアの国でした。ルーシィは姉妹たちに、ナルニアの事やそこで会った野山の神フォーンのタムナスさんの事、白い魔女の事など話しましたが信じてもらえません。それから何日かたったある日、ルーシィを追いかけナルニアへやって来たエドモンドは、白い魔女からもらった魔法のプリンを食べてしまいました…。

4人の兄弟姉妹は、偉大なライオン、アスランの作った自由の国ナルニアを取り戻すため、アスランたちと共に白い魔女の軍と戦います。様々な試練を乗り越え成長した4人が元の世界に戻るまでのお話。

ナルニア国ものがたり全7巻の1巻目。(池之上)

5月	6月	5・6月の移動図書館 (いずれも木曜日です)				
11日	8日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
18日	15日		岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
25日	22日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30~15:50	吉福 公民館 16:00~16:30

お知らせ
絵本の交換会
6月10日(土)
10時30分~16時
場所：図書館読書会室

ご家庭に読まなくなった絵本があればご持参ください。他の方持参の絵本と交換できます。
※絵本の寄贈も受け付けます。
(傷みのひどいもの、落書あり、漫画はご遠慮ください)

『希望の裁判所 私たちはこう考える』 日本裁判官ネットワーク 編

弁護士会館ブックセンター出版部 LABO 375頁 2016年12月刊 2,500円 (請求記号) 327.1

本書は開かれた司法の推進と司法機能の充実強化に寄与する事を目的として設立された「日本裁判官ネットワーク」の、裁判官や元裁判官(現弁護士)が今日まで総力を挙げて取り組んできた司法改革について、四部構成でまとめた現時点での報告である。

裁判所の使命は少数者の人権が制限、抑圧されていることに敏感に反応し、これを守ることであるが、過去には問題点が多く、多忙すぎる民事裁判官、内部養成への過剰意識、不透明な人事による覇気の低下や不祥事があり、たて直すために様々な改革がなされてきた。また裁判所があっても弁護士がいらないという地方の現実や、専門訴訟(知財、医療、建設関係等)について法曹全体の深刻な力量不足などの問題から法科大学院が設置されたが、十分機能していない現実が語られる。そして過去の刑事裁判法廷の実際を紹介し、供述調書による裁判の大きな問題点に言及している。捜査官の見込みや思い込みに合わせた調書作成による無理な取調べが冤罪を生み出していたのだ。ところが裁判員裁判が始まった事で公判中心主義、直接主義を取り入れ、確かな争点の確定と集中した証拠調べの重要性がわかり、調書に重点を置かない裁判へと大きな意識改革に繋がり、民事裁判でも専門家の意見のやり取りを行う集中審理を目指す動きへと向かっているという。

長い間、裁判は縁遠いわかりにくいものだった。ところが最近身近な人が裁判員になり本書を手にとった。難解な専門用語が並んでいるが、ひとつひとつの裁判には心が痛む事やホッとすることがあり、裁判所、法曹界の担う役割は大きいと感じた。裁判員裁判制度には批判も多く、この日本独特の新しい制度に疑問を抱いていたが、本書を読む限り市民の視線を刑事裁判に取り入れ様々な改革、改善に繋がっている事がわかった。ただ欧米に比べると整備されていない事も多く、よりよい制度に向けての更なる改善には私たち市民の努力もいると痛感した。

「剣なき秤は法の無力、秤なき剣は単なる暴力」 弁護士バッジの中心に描かれている天秤の意味だそうだ。(西村)

5月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

- ・カレンダーの×印は休館日。
- ・■は館内整理日。返却のみ受けつけます。(10:00~17:00)
- ・開館は10時~18時。金曜日は20時まで開館。

地下水

五月末に、職場の健康診断を受ける。いつも悪玉コレステロールの数値にD判定がつく。数年前に医者に行った。数値を見ただけで「薬を飲みますか。」と聞く先生に、原因も探ってもらえないのかとがっかりした。薬に頼り続けることも不安で、そのままになっている。「納豆を食べたら」、「ウオーキングで」数値が落ちたという話を身近な人から聞くが、私には効き目がない。図書館で、コレステロール値を下げる、という文字を目にする。と、できそうなことはやってみる。ところが、どんなに気をつけても、必ずD。ムツとする。さらに「脂質代謝異常の疑いあり」と書かれ、ムツとする。「異常」という表現が気に食わない。

昨年末に、知人に一年後にマラソンに出ようと誘われた。二〇分かけて二kmを走れるようになったころには、知人は「今日は八km走ったよ。」などとメールをよこすようになっていた。このペースだと、フルマラソンはどのくらいの時間がかかるのか、と悩ましく思っていると、知人が走りすぎて足を傷めた。マラソンは負担が大きすぎると医者に言われたらしい。これ幸いと、私も走らなくなった。

検診結果を手にする、なにをしてもだめなんだと腹を立てるくせに、検診前数週間になり、あのまま走り続けていた。検診結果はよくなったかもしれない、などと普段の生活を振り返ったりする。

(竹内)

